



HP: <http://rakuno.org/>

風声雪語 — 野幌だより —

酪農学園同窓会連合会ニュースレター

高校・短大・大学 同窓生関連の最近の話題

「酪農学園同窓会 in 全共」が開催されました。

- トピック
- HPの更新状況から
- 高等学校関連
 - ・全共リードマンコンテストで優勝
- 短期大学関連
 - ・Ⅱコース記念誌発刊予定
- 大学関連
 - 2015年
 - ・全共で好成績
- 地区支部同窓会関連
 - 2015年
 - ・上川第二支部 設立準備会開催
 - ・関東甲信越高校 合同同窓会開催
 - ・青森県支部総会開催
 - ・鳥取県支部総会開催
 - ・兵庫県支部総会開催
 - ・酪小獣東北総会開催

全日本ホルスタイン共進会(10月23日から26日)参加OBを歓迎する目的で、24日(土)午後6時から新さっぽろアークシティホテルを会場にして「旧家畜飼料学・家畜栄養学研究室」と合同での「酪農学園同窓会 in 全共」が開催され、学園関係者や大学、短大、高校のOB等が全国から約60名が出席した。



学園から竹花一成大学長、榮忍高校長、永田享後援会常務理事、堂地修教授にご出席いただいた。家畜飼料学研究室から榎崎昇名誉教授、安宅一夫名誉教授、野英二教授等が出席。同窓会からは野村武顧問、小山久一会長、事務局が出席した。

この同窓会には「旧家畜飼料学・家畜栄養学研究室」のOBが本州から多くご出席いただいた。齊藤達雄同窓会栃木県事務局長はじめ全共出席者や地元の札幌支部から下田尊久支部長、中山博敬事務局長にもご出席いただいた。

会は野先生の総合司会で進行了た。

まず、小山久一同窓会会長の主催者挨拶のあと、ご来賓を代表して竹花学長、榮校長が歓迎のご挨拶が行われた。その後、西田丈夫氏(研究室OB会長)の祝杯により祝宴に入った。

榎崎先生から近況報告交えた心温まるスピーチを頂戴したのち、2次会に向けての資金?のための研究室恒例のオークションが北口雄大氏の司会で行われ大いに盛り上がりました。出席者は和やかな雰囲気の中で久しぶりの恩師との再会を楽しんでおり、先生もお喜びの様子でした。

全国各地からご出席いただき、ありがとうございました。

同窓会の現況 (卒業生数)

2014年度 累計卒業生数

大学院 計	1,528名
大学 計	27,925名
短大 計	9,487名
高校 計	19,246名
合計 計	58,186名
酪農義塾 計	303名
酪農学校 計	92,000名
総合計	150,489名



地区支部の設置状況 () は未設置

- 北海道1区: 3支部(1)(江別)
- 北海道2区: 6支部(3)(空知1)(胆振2)(日高2)
- 北海道3区: 5支部(2)(後志1)(後志2)
- 北海道4区: 6支部(2)(上川2)(留萌1)
- 北海道5区: 6支部(0) 26支部(8)
- 東北地区: 6支部(0)
- 関東甲信越地区: 10支部(0)
- 中部地区: 7支部(0)
- 近畿地区: 6支部(0)
- 中国地区: 5支部(1)(島根)
- 四国地区: 4支部(0)
- 九州地区: 8支部(0) 46支部(1)

目次:

最近の話題	1
同窓会現況	1
単位・地区同窓会	2
職或OB会報告	3
同窓会報告	4
編集後記	4

地区支部同窓会紹介コーナー

東北地区青森県支部総会



34年の歴史を持つ青森県支部の平成27年度総会は浅虫温泉「柳の湯」を会場にして21名の出席者により執り行われた。本学からは仙北富志和学園長、浦川が出席した。

杉山篤弥支部長の司会で進行し、東北地区会長でもある杉山氏が歓迎の挨拶を述べた。総会議案では（1）今後の体制・運営方針について協議が行われた。事務局からの提案で支部総会は2年に1度開催することとした。（2）役員改選では2年に一度見直すこととし、別紙の原案を承認して全員を再任した。（3）その他。

近況報告では、事務局より同窓会の現況を述べた。まず「連合会」の名称が「酪農学園同窓会」と変更、役員任期の変更、同窓会長の交代等を紹介した。また先月北海道安平町で開催された全日本ホルスタイン共進会における本学の成績と青森県から出品した千葉準一氏の入賞を紹介した。

総会の閉会后、研修会が行われた。仙北学園長は学園近況を概略を報告した。その後「黒澤西蔵翁生誕130年・遺訓を聴く」の講演録の中から以下の遺訓を紹介した。

「幸福は満足する人に集まり、不平不満の人からは逃げ去る。不平不満は感謝することを忘れた人に生まれる。毎日感謝し、満足するから希望が生まれる。これが本当の人生である」また「世界は必ず一つの共同体になる運命を有している。これが天地自然の大法則であろう」と述べ、黒澤翁についてこれくらい幅広い分野で活躍した偉人は少ないとも述べた。

その後、集合写真撮影ののち、会場に移動して懇親会が行われた。支部長の司会で和気藹々とした中で出席者全員の自己紹介、近況報告が行われた。最後に恒例の酪農讃歌を合唱して終了した。（文責 事務局）

中国地区鳥取県支部総会



羽衣伝説の遺児の名に由来する倉吉市において、第二回中国地区鳥取県支部総会が15日（日）、午後7時から倉吉シティホテルにおいて20名の出席で開始された。

会は門脇文生事務局長の司会で進行し、石賀隆好支部長の歓迎の挨拶で開会した。まず本学および中国地区からの来賓が紹介された。会則により石賀支部長が議長となり、議事を進行した。第1号議案として平成26年度事業報告及び会計報告を事務局から資料に基づき説明し、拍手で承認された。第2号議案として事務局より平成27年度事業計画を報告、承認された。議長団が解任され、総会議事を終了した。

次に酪農学園の近況報告として、まず後援会の近況を永田享常務理事が行い、後援会への寄付金お礼と今後の寄付金の協力依頼を含めて報告した。学園の近況については仙北富志和学園長が干場学長解任、竹花新学長の就任、高大統合寮紹介等を紹介した。また、学園長は配布した「講演集」の中から黒澤西蔵の遺訓を紹介した。その後、「酪農学園史一写真が語る80年」DVDを約20分程度放映し、全員で視聴し、在学当時の懐かしい写真に感激していた。

集合写真撮影のあと、同会場で懇親会が行われた。石賀支部長からの懇親会挨拶のあと、立原英夫中国地区会長から祝辞と乾杯により懇談の時間となった。

会場には北海道開催の全共に出品した若いOBも出席し、和気藹々とした雰囲気での和やかな歓談が続いた。最後に酪農讃歌を全員で合唱し、同窓会事務局からの締め乾杯で第二回総会を終了した。



Page 2 本学の優秀賞受賞牛ソフィア



職域OB会（酪小獣・緑風会）・単位同窓会紹介コーナー

酪小獣地塩会（中部地区）研修会



標記の総会等は平成27年10月18日、愛知県JR名古屋駅前の「ウイंकあいち」（愛知県産業労働センター）11F1109会議室を会場に、ご来賓には学園常務理事の福山二仁氏、研究会講師には本学獣医学群伴侶動物外科学Ⅰ准教授の井坂光宏先生をお招きし午後1時～5時の4時間に亘り開催しました。

総会は、永井勝会長から1. 第1回酪小獣全国会議が学園東京事務所で開催、全国会議を毎年開く事が決議された。2. 獣医科卒業生の子弟枠制度の新設要望書は本年4月に大学の学長、獣医学群長、獣医学類長へ提出された。3. 関東東北大水害被災病院義援金は本日参加された個人個人の任意で行い、全額を関東地区の白樺会事務局へ送付する等の報告と要望があった旨の挨拶がなされた。

加藤正木事務局長からは、1. 報告事項①平成26年度の事業報告（研究会：獣医学群伴侶動物内科学Ⅱ玉本隆司助教による「腎疾患の診断と治療」）②附属病院臨床教材ライブラリの配信（外側耳道切除・直腸粘膜引き抜き術・各施術のスライド・胸骨縦切開による胸腺腫摘出手術・肥満細胞腫広範囲切除）③付属図書館文献複写サービス（未所蔵文献も取り寄せ可能）について④その他として学長解任にあたり竹花一成（獣医11期）学群長が8月26日から新学長に就任された等々報告の後、2. 審議事項に入り①昨年度の収支決算について②本年度事業計画（本日の研究会）③地塩会の運営④連絡網の見直しの審議に入り事務局案が決議された。

小動物臨床研究会は、井坂光宏先生が①安価にできる椎間板ヘルニア手術（胸腰椎）②心臓超音波検査の基礎（B/M）の2題についてプロジェクターを用い76枚の図表を駆使されて、分かりやすく丁寧に講義された。

井坂先生は本学獣医学科30期同窓生で卒業後は北海道大学大学院医学研究科、高次診断治療学を専攻の循環器外科の医学博士です。大学院終了後は、日本やアメリカなどで小動物の一般診療や獣医循環器系の実学研究等を研鑽され、本年4月から母校の准教授として活躍されています。

講義の内容は、演題にある疾病のCT、MRIの画像による治療の指針や治療法の検討を如何にすかが話され、とても有意義でした。先生は並み居る同窓会の先輩兄弟に気を遣いながらの講義されたので、さぞやお疲れになったことと拝察しました。

懇親会は午後5時から7時までの2時間でしたが、福山二仁常務理事が学園の近況についてお話しされた後、乾杯で始まり酪農賛歌で恒例とおりに散会しました。

（文責 地塩会会長 永井勝）

緑風会道東支部研修会



10月31日（土）中標津農業高校で「緑風会」道東支部の研修会が開催された。本学からは教職担当の岡田正裕先生と入試課加藤の2名が出席した。研修会出席者は16名。岡田先生からは「農業教育のあり方」という演題で講演をいただく。

農業高校出身学生の傾向分析や、学習指導要領、農業教育のねらいやプロジェクト学習について解説していただいた。その後入試課加藤より本学の入試制度について説明。

その後町内のしいたけ栽培の株式会社日翔を訪問した。（文責 入試課 加藤浩）



大学獣医学科1期生同窓会 in 博多

平成27年11月13日（金）博多で河豚を食べようの呼びかけで、全国から13名の同期生が集まり、旧交を温めつつ楽しい一夜を過ごしました。

翌日、飲み過ぎと体調不良になった方もおられましたが、お昼には再び元気な姿を見せ、一同ほっと胸をなげ下ろしました。一期生も70才、はめを外すのもほどほどに、これからは一日一日を大切にしようと誓いました。

来年は、広島県安芸の宮島でカキ鍋をつつこうと約束し別れました。2015. 11. 15

（文責 獣医科一期生 木村周一 記）

〒069-8501

北海道江別市文京台緑町582

酪農学園同窓会

電話 011(386)1196

FAX 011(386)5987

Email: rg-dosok@rakuno.ac.jp.



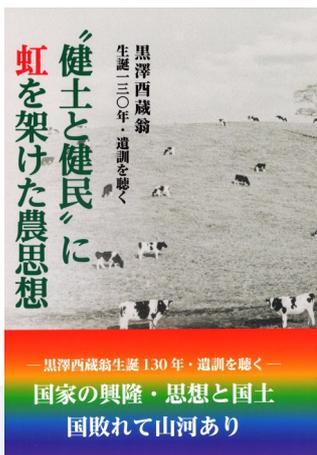
同窓会は卒業生を応援します



図書進呈のお知らせ

仙北富志和学園長(酪農学科1期生)が創立者黒澤西蔵生誕130年を記念して「『健土と健民』に虹を架けた農思想」という書籍を1月15日に発行した。

創立者の「遺訓を聴く」との副題でまとめられています。希望者は82円切手2枚(郵送費実費分)でお送りします。上記同窓会事務局までお申込み下さい(再掲)。



関東甲信越地区高校合同同窓会

高等学校関東甲信越地区合同同窓会が11月7日の土曜日に酪農学園東京オフィスで開催されました。

毎年行われている同窓会で今回が14回目の開催となり、来賓として高校からは栄忍校長と酪農学園常務理事の福山二仁様・酪農学園同窓会副会長(とわの森三愛高校同窓会長)浅野政輝様・酪農学園同窓会関東甲信越会長の岡田勉様・同じく東京支部長の須田利明様を迎え19名(当日3名の欠席者あり)の同窓生と23名の出席で、和気あいの楽しい合同同窓会となりました。

関東甲信越地区はもちろん遠くは富山県から駆けつけていただいた先輩、三愛女子高卒業の女性3人を交え、懐かしい話や初めて聞く話、学校の近況報告やらと話が尽きる事無く1時から5時までの4時間はあっという間に過ぎてしまいました。やさしい先輩や後輩や同じ釜の飯を食った仲間達に助けられ楽しい時を過ごすことが出来ました。

今年こそは「より多くの参加者を！」と意気込んで、368通の案内を出しましたが結果は昨年同様でした。来年は今年を反省材料にしてより多くの方に参加をしていただけるように役員一同で工夫をしてみたいと思います。今回参加いただいた皆様に感謝すると共に酪農学園の発展を心より祈念し同窓会の報告とします、ありがとうございました。(文責 発起人代表 半沢 司)

今後の主なスケジュール

11月

- 21日(土) 北海道第三地区会(八雲町)
- 21日(土) 中国地区岡山県支部総会(岡山市)
- 28日(土) 北海道4区上川第二支部設立総会(富良野)
- 29日(日) 近畿地区和歌山県支部総会(和歌山市)

12月

- 06日(日) 酪小獣九州ブロック臨床技術研修会(福岡)
- 06日(日) 中部地区福井県支部総会(福井)
- 13日(日) 九州地区大分県支部設立総会(大分)

2016年

- 1月
- 07日(木) 緑風会総会・新春懇談会
- 23日(土) 北海道第5地区十勝支部総会
- 30日(土) 九州地区沖縄県支部総会
- 31日(日) 九州地区鹿児島県支部総会
- 2月
- 07日(日) 関東甲信越地区茨城県支部総会(つくば)

あ と が き

昨年の今頃は大雪も降り、冬モードに入っていましたが今年の寒さはそれなりで晩秋のどんよりした日暮れの早い日が続いております。構内の木々も葉を落とし、冬将軍の到来を待っているような気配です。裏の野幌森林公園(原始林)も針葉樹を除き、幹をさらして見通しのよい森に変わっています。

2015年も早いもので残り一月あまりとなり、今年を振り返る季節となりました。春には高大統合の新男子寮が開設し、機農寮、創世寮、北光寮が閉寮となり、その使命を終えました。寮生OBとしては過去の思い出深い建物がまた一つ無くなることに一抹の寂しさがあります。

残念なことに学園では7月には前干場学長の解任があり、8月末には同窓生の竹花一成新学長が選任され、1年半余の残任期間を担当します。同窓生学長の応援をよろしくお願い申し上げます。

また十年ぶりに第14回全日本ホルスタイン共進会が10月23日から26日北海道安平町で開催された。本学からの出品牛3頭やとわの森生リードマンはいずれも好成績を残した。全共での大学からの出品も入賞も初とのことでした。また380人の出品者のうち酪農学園OBが60数名おり、好成績を修めました。(U)